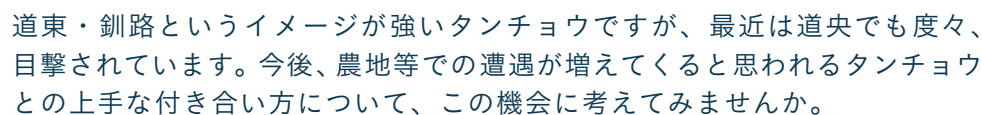


～ 道央でのタンチョウとの共生について～

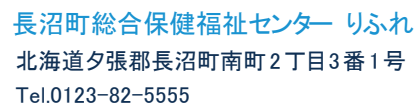


会 場 / 長沼町総合保健福祉センターりふれ 2F 研修室



佐渡トキの田んぼを守る会 会長 齋藤 真一郎氏

2001 年に地元農家により結成された「佐渡トキの田んぼを守る会」の会長を務める。自身も人と環境にやさしい農業を実践し、小学校の総合的な学習の時間に行われるトキに関する勉強の講師を務めるなど、トキの舞い降りる田んぼを目標に、環境・生きものと共生する農業を模索している。



開催趣旨

一時は絶滅の危機に瀕していたタンチョウは、地域住民や行政等の協力により 1,000 羽を超えるまで回復し、道北や道央でもその姿を見られる機会が増えています。

タンチョウとの共生にあたっては、食害等の懸念も考えられますが、近年では野生生物を活かした農業の事例も増え始めています。

本セミナーでは、タンチョウと農業従事者とのよりよい共生関係の構築をめざし、佐渡市でトキと共生した農業に取り組む現役農家をお迎えし、同じ農業従事者の目線から野生生物との共生についてのお話を伺います。

プログラム

15:30	開会（15:00 開場）
15:35	開催趣旨説明 「近年の道内のタンチョウについて」 環境省北海道地方環境事務所
15:55	基調講演 「生きものと共生した農業に取り組む」 佐渡トキの田んぼを守る会 会長 齋藤 真一郎氏
16:40	質疑応答
17:00	閉会

先進事例

トキと共生した農業（新潟県佐渡市）

佐渡市には、生物多様性をテーマに生きものを育む農法等で生産した認証米「朱鷺と暮らす郷」があります。この認証米「朱鷺と暮らす郷」は、厳しい基準が設けられていますが、「佐渡産コシヒカリ」より高値で販売されるとともに、売上の一部はトキ保護募金に寄付されています。このように佐渡の生きものと共生した農業は、地域経済の活性化と生態系の再生につながっています。

更に佐渡は 2011 年に世界農業遺産に認定されており、このような生物多様性保全を重視した農業をはじめ、佐渡の伝統的な棚田の農業や多様な農文化の持続性を高める活動を進めています。



タンチョウも住めるまちづくり（夕張郡長沼町）

千歳川流域の治水設備として長沼町に整備された舞鶴遊水地（面積 200ha）では、2014 年度より周辺農家を中心となり「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」を設立し、タンチョウとの共生に向け独自の活動を開始しました。この活動に呼応する形で、2016 年度より、札幌開発建設部と長沼町は、環境省を含む地域の関係団体と連携し、9 月 6 日に「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」を設立しました。



参加申込

申し込み締切 11 月 18 日（金）
必要事項を記入のうえ、FAX、郵便、E メールでお申し込みください。

氏名	住所 [勤務先・自宅] ※○で囲んでください。		
連絡先 [電話・FAX・Eメール] ※○で囲んでください。	所属機関		

個人情報は本イベントの受付のみに利用します。

[問い合わせ申込み先] ■長沼町総務政策課付 日本生態系協会研究員 横山（※北海道地方環境事務所業務請負者）
〒069-1392 北海道夕張郡長沼町中央北 1 丁目 1 番 1 号
TEL.070-4310-4130 FAX.0123-88-4836 Eメール.tancho@ecosys.or.jp